



春のお彼岸です

彼岸とはその名の通り「岸の向こう」。その向こう岸とは悟りの世界のことで。サンスクリットではパーラミーター（波羅蜜多）といえます。様々な苦に悩む煩惱の世界（此岸）に対する言葉ですが、日本の特に浄土系の信仰では一般に死後は阿弥陀如来の導きにより人は彼岸に渡ることができると考えられています。既に彼岸の世界に行った人たちが供養するとともに、まだ辿り着けずにいる人たちに早く向こうへ辿り着けるように祈る、というのがこの彼岸の趣旨となります。春分・秋分の時期にこの彼岸法要を行うのは、太陽が阿弥陀如来の浄土の方角

である真西に沈むためであるといわれています。つまり阿弥陀浄土を観じるのに最適ですし、迷っている人にとつては太陽の沈む方角が進むべきみちということとなります。仏道修養のひとつと思えば先祖様・先亡霊位を感じお墓まいりをしてください。



▽大震災から一年です△  
あの大震災から一年が経ちます。被災地に立つと人のあらゆる時間の生活が一時のうちには消滅してしまつた、自然の脅威を感じます。仏教では人は自然界に生かされている」という表現をします。ありとあらゆる「おかげ」をいただき生きていくことができるのです。もう一度生かされている喜びを感じ感謝する毎日を送りたいと思えます。



二月に住職が増上寺ホールにて講演をいたしました。災害ボランティア活動を体験して」という内容で災害と寺院の関わり等についてお話ししました。東京の浄土宗寺院でも多くの方々が奉仕活動に出向いています。これから何度か被災地に赴く予定です。

「これからも続けますー！  
よろしくお願ひしますー！」  
昨年五月より八月まで、法問寺の蓮の絵葉書を作つて皆さんに購入して頂き、その売上げ（全額）を東日本大震災の津波遺児の特別一時金として一四二、〇〇〇円、寄付させて頂きました。その後、引き続き、薔薇の花やわんこの絵葉書、そして手作りアクセサリーなどの売り上げでは、物資の支援を、被災地の人や、動物のために、順次、ニーズを見つけて送らせて頂いています。画像は、若手県遠野に



送った手袋と、福島動物保護施設に送った犬の「ご飯、おやつ、ペットシート」などです。微力でも、少しずつでもできることをみつめて、続けていきたいと思ひます。皆さまの、気の長く、いご協力を、なにとぞ、よろしくお願ひ致します。また、これまでにご協力頂きました皆さまには、重ね重ね、感謝いたします。ありがとうございました。



今年の冬はなかなか厳しい寒さもあり、全国的にも梅の開花が遅れているということですが、法問寺でもこのころやこと紅梅が咲き始めています。そんな矢先、雪が降り沈丁花の蕾の上にも雪が重たそくに積りました

